

2023年5月31日

学校法人博陵学園

みくま幼稚園

2022年度 重点目標への取り組み

今年度自己評価

昨年度

2022年度 重点目標への取り組み	今年度自己評価	昨年度
(1) 子どもたち一人一人をよく見て必要なサポート	○	○
(2) 子育てへの支援	○	○
(3) 教職員の育成・雇用	△	○
(4) 事務量増大に伴う対応	○	○
(5) 園児減への対応	△	△

○・・・成果を出せている △・・・課題にぶつかっている ×・・・方針転換が必要

(1) 子どもたち一人一人をよく見て必要なサポート

保育以外の専門分野との連携・専門的視野を持つ幼稚園へ

就学前の子どもたちの身体的な成長、精神的な成長、スキルの獲得や成長に焦点を当てて、一人ひとりの子供に丁寧なサポートができる現場づくりを目指す。

健康診断では視力検査で屈折検査ができる医療機器を導入

子供の弱視や視力矯正の必要があるケースを早期に把握

聴覚情報の医療機器を導入して客観的な判断による集団検診でのスクリーニングを実施

常勤の言語聴覚士による全園児へのサポート

専門職による現場へのサポートの助言、また特別なサポートを要する場合への助言の体制

今後、園医とも綿密な連携を撮る予定

(2) 子育てへの支援

相談窓口の確保

地域子育て相談に加え、よろず相談窓口の設置など、地域での子育てステーションを目指す

コロナ禍の影響により加速した少子化の影響を大きく受けていく状況の中で、「子育て」はますます孤独な育児化する様相となっている。

みくま幼稚園の保護者交流の応援

満3歳児クラスの保護者交流会、PTA主催のボランティアによる制作会など、交流の場を求める保護者に好評であった。来年度より「みくまカルチャー・みくまサロン」も実施することを検討中。保護者同士も興味や関心によってつながりあい、学びの場を得られるよう支援を実施する。

(3) 教職員の育成・雇用

教職員の世代別の課題

・若手育成への課題

教職員の育成問題として、従来の先輩が後輩を教えるスタイルではなく、若い先生達が同世代で考えを出し合い、それをバックアップしていく体制へシフトしたいと考えている。来年度は思い切った「任せる人事」により、経験者が後方支援に回ることを検討。

・15年以上の経験者の課題

経験年数に応じた研修に参加する中で、保育に取り組む仲間との交流を通じて、自分たちの課題に気づき、取り組む姿を今後も支援する。

教職員の雇用確保

・雇用に関する年間スケジュールの設定

株式会社ベルサンテによる「就職フェア」へ参加、後輩繋がりで一名の職員を雇用した。退職意向は普通退職の相談を経て9月末までとしているが、相談なく退職願を出すことがあり、退職と雇用が噛み合わないため、年間の雇用スケジュールを考え直す必要がある。

・養成校への働きかけ

園から養成校へ資料を持参して、養成する側にみくま幼稚園の存在を伝えていく必要がある。来年度よりスケジュールの作成と連携を作っていく。

(4) 事務量増大に伴う対応

大阪府よりICT化補助金を受けて預かり保育のオンラインでの申し込みへ移行中。

今後、グーグルフォームなど活用を目処に取り組む。集金システムについても検討する。

(5) 園児減少への取り組み

満3歳児入園

2021年度9月より在園児の妹弟を対象に始まった満3歳児入園だが、今年度5月より一般枠の募集も開始、願書の提出、面接、入園の受け入れなどの流れを作る。担当者の選別など課題は多く今後の子育て支援と保護者指導を含め課題は多い。当面の2023年度3歳児の確保としては目標の40名に届く人数を確保できている。

しかし、今後競合の満3歳児入園実施により少ない人数の中での競争市場となるため、特色の打ち出しや子育て支援に対応できる担任の質確保が重要となると思われる。

2023年度への課題

・職場環境をまもる、充実させる

教職員の感染予防、勤怠管理、有給休暇取得などが定着してきており、育児や介護などそれぞれの個人的な事情を職場で支え合いながらその就労が継続できるよう職場全体が理解をし合って取り組む。特に介護離職を防ぎながら保育現場の充実が図られるよう検討していく。

また、園医と密な連携ができるよう契約内容について検討している。

・大型修繕への備え

10年単位での大型修繕を15年から20年のスパンでの見直しで再検討していく。

・災害への備え

卒園児の記念品贈呈の機会も利用しながら、災害時の園児と職員の安全確保と対応についてマニュアルの改訂、研修を実施する。

・子育て支援の課題

コロナウイルスによる少子化の影響は大きく、子育て世代の激減もあり、地域の子育てステーションとしての機能が幼稚園に求められる。また、不登校の増大など、卒園生支援も求められている。今後、福祉の費用削減、教育現場の人材不足の課題も大きく、保護者が子どもを育てていく力をつける支援を考える必要がある。

・少子化への対応

少子化に伴い、収益源は免れることはできない。また、私学助成園として特色ある幼稚園保育を実施する本園として、0歳からの子育てに寄り添う支援策が求められる。

空き教室の効率的な利用も検討課題である。

職員の確保ができればクラス減を防ぐこともできないため、雇用に関する策を早急に投じる必要がある。

管理職の分業化も必要であり、クラス運営への支援、特別支援への対応、など現場へのサポート以外に、対外的な雇用やコンプライアンスへの対応、理解など社会情勢の変化に対して組織へつなげる役割も必要。

学校評価委員会

日時：2023年9月20日 午後3時から

場所：みくま幼稚園 小ホール

第三者委員会

日時：2023年9月20日 午後4時から

場所：みくま幼稚園 小ホール

同会は、みくま幼稚園・安芸志穂子園長による、自己評価報告書に沿った説明で進められた。項目ごとに参加者、特に同園に子どもを通わせていた元保護者の委員から、通園時の振り返りの提示、現在の様子への質問が行われた。学校評価委員会、第三者委員会での話し合いの中で、重要な論点や代表的な意見をまとめる形で掲載する。

・現在の幼稚園の体制の拡充

2020年春からコロナ禍によって、全国的に幼稚園への入園希望者が減少しているとの報告があった。このような中、在園児童のきょうだいを対象とした、満三歳児保育を早々にはじめ、子育て支援を行っているという報告が安芸園長からあった。ここで特に意識しているのは、早く満三歳児になる園児よりも、1～3月に満三歳児になって入園してくる園児であるということであった。保育学的にも4、5月に出生している児童のその後の優位性などが論じられることが多くなってきているが、その差を埋め合わせるためにも、いわゆる「早生まれ」の児童へのより充実したケアが必要になってくると考えられる。

・みくま幼稚園の子育て支援

ある参加者からは「みくま幼稚園はまるで実家のような場所」だったという発言が出た。これは現在でも行われている、「すべての子育て、すべての子どもにサポートが必要である」という考えのもとで実践されている手厚い保護者支援を指しての言葉である。また、少子化に伴う子育てをしている母親の減少に伴う少数派化に対する保育業界のサポートが今後重要な社会的な使命となることも含んでいる。

社会的な変化の流れも早く、情報過多、便利なものが消費奨励のもと無類に生み出される中で、実体験不足のまま特定のコミュニティにも守られずに子育てをしている母親が圧倒的に多い。大阪府の調査でも、うまて育った地域から離れた場所で全く知り合いや家族、友人らのいない場所で子育てをしている人は70%にのぼる。そうした背景を踏まえ、安全で安心して属して学ぶことができるコミュニティづくりと、そこに参加して繋がり合う体験を提供したいとの思いから、保護者同士が子どもたちのように興味と関心でつながり合える場所として「みくまカルチャー・みくまサロン」の企画が来年度から実施の運びとなっている。

今回の会議でも子育て支援には大きな関心と焦点が当たり様々な意見交換がされた。保護者への子育て支援の中で、特に課題となっているのが、親育ての部分となる。全てを下請けに丸投げしてしまい、親が子を育てていくための手立ての仕方を学ぶ機会を奪ってしまうことのないよう、親になった人が、安心して育まれる環境を作っていかなければならない。現代の子育て環境では母親の消耗が大きく、まずその体力の回復、気力の充実が望めるような状況を提供していくことが重要であり、今後の試行錯誤を重ねる中での取り組む課題となってくるということが説明され、小規模保育園経営者、企業人材育成指導者、大学での学生指導者らもまじえ、参加者より子育ての時の経験談など多種多様、活発な意見交換がなされた。安心安全に子を産み育てられる環境づくり、親が親として育ちゆくシステム作りは今後の大きな社会全体の責務でもある。

・保護者支援を通じた親の成長

別の参加者からは、近隣に塾やサッカーなどの習い事はたくさんあるが、親や少し周囲から取り残されてしまう子どもの居場所・コミュニティがないという意見もあったため、みくま幼稚園では2022年度から大学生の講師による小規模の将棋教室を開いており、卒園生など広くケアをしている。また、絵画工作教室のアトリエには一回ごとの利用ができるため、幼稚園に帰る場所があるという安心感があるとの意見もあった。

また、専門職の知見による説明や学び、納得のいくまで相談できる場所の確保のため、みくま幼稚園では現在の相談体制に加え、2023年度より発育発達専門医が保護者との相談室を設け、現場のサポートにもあたっていることが説明された。幼稚園の子どものみならず、地域の親子も対象としており、幼稚園が地域の子育てステーションとして存在することの必要性を感じていることには、参加者一同から大きな賛同が得られた。

・教職員の職務体制

本年もすでに新卒の学生を確保しているが、採用状況は年々厳しくなっており、近年の無償化施策によって、事務仕事の量も格段に増えている。また、バスの中への置き去り事件など従来では考えられなかった事件も世間を賑わせ、現場の当たり前でできていた安全管理にそれを証明して発信していく過程が必須となり、現場の細分化された作業は増大している。このような状況下では、教職員の体制を見直す必要が出てきており、事務仕事と、教育業務の人員を分離する必要があるが、公的な人件費補助はまだその実態から遠く、少子化の中で手間がどんどん増えていくといった実態は現場への就職を考える学生たちにも大きな影響を与えている。このような説明に対して、参加の委員は肯定的に受け止めていた。

以上、この両委員会に参加し、いくつかの質疑応答にも参加した上での所見となる。



みくま幼稚園 学校評価委員会・第三者評価委員会

監 査 報 告 書

2023年 3月 31日

学校法人 博陵学園
理事会・評議員会 御中

学校法人 博陵学園

監 事 弘田陽介 
監 事 戸谷朋子 

私たちは、学校法人博陵学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第16条に基づいて同学園の2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）における業務及び財産の状況について、理事会その他重要会議に出席するほか、理事長から学校運営の報告を聴取し、重要書類を閲覧し、会計監査人から報告説明を受け、事業報告書及び計算書類等を調査いたしました。

監査の結果、私たちは、同学園の業務及び財産の状況に関して不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。

また、財務に関する計算書類は学校法人会計基準に準拠しており、学校法人博陵学園の2023年3月31日現在の財務状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。

(注) 監事 弘田陽介及び監事 戸谷朋子とも私立学校法第38条第5項に定める外部監事であります。

2022年度 事業報告書

2022年4月 1日から

2023年3月31日まで

学校法人博陵学園

1. 法人の概要

名称 学校法人 博陵学園（昭和42年7月14日法人設立）

代表者 理事長 安芸 志穂子

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

電話 06-6872-0210

FAX 06-6872-5993

設置する学校

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

名称 みくま幼稚園

役員

理事 6名

監事 2名

評議員 13名

理事会 2回開催

評議員会 2回開催

職員 36名

2. 事業の概要

（ みくま幼稚園 ）

〈教育方針〉

たくましいからだとゆたかなこころ

〈教育内容〉

子どもの生活体験を育み友人関係を基盤とした集団生活の中で、健康な体づくりと豊かな心の体験を培う保育内容の展開と実践

〈園児数〉

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	4	120	4	130	4	130	12	380
2020年度	4	93	4	92	4	110	12	295
2021年度	4	65	4	115	4	105	12	285
2022年度	4	61	4	78	4	101	12	240

〈保育時間〉

月～金曜日 午前9時～午後2時

土曜日 休園

〈納付金〉

【満3才児】年額 396,000円（12分割33,000円）

【3才児】年額 360,000円（12分割30,000円）

【4才児】 年額 336,000円 (12分割28,000円)

【5才児】 年額 336,000円 (12分割28,000円)

教材費 年長 年額 10,000円

年中 年額 10,500円

年少 年額 10,500円

満3才児 年額 6,000円

空調費 年額 6,000円

給食費 週4回 月額 6,400円

バス維持費 月額 3,000円

《入園時の費用》

入園料【満3歳児】 75,000円

【3歳児】 70,000円

【4・5歳児】 60,000円

《預り保育の時間及び費用》

月～金曜日 午後5時30分まで

夏冬春休み中の預り保育は午前8時～午後6時（延長時間含む）

《行事实施状況》

入園式、遠足、運動会、保育参観、クラス懇談会、ふれあい動物園、音楽会、表現活動発表会、マラソン大会、卒園式、プール（水遊び）

《施設関係》

園地総面積 3,821.5㎡ 運動場 2,660㎡

園舎の修繕、遊具の保守・点検を実施

《設備関係》

アヒル・ウサギ小屋新設工事、パソコン、パンダ組ロッカー

《事業報告》

わが国は、結婚しなければ出産しにくい社会であるが、新型コロナウイルスの影響による婚姻率（人口千人当たり件数、2015年～19年の平均4.9から、20年4.3、21年4.1）の低下、既婚女性の出産控え、加えて未婚女性の希望子ども数が2人から1.58人を下回る状況となり、2022年の出生数は、79万9千人（日本人の確報ベースでは77万人）と超少子化が進んでいる。

子育て人口の減少とともに、共同体で育むかつての子育てはますます現実から離れたものとなりつつある。子供を育て合える環境の作ることが急務であり、みくま幼稚園では今年度より、保育に新たに発達外来の園医や心理士が加わり、地域での0歳からの子育て支援を視野に入れて、発育、発達を見守るとともに子育ての環境づくりに幼稚園が貢献できるように子育て支援センターの充実を目指す。

岸田総理大臣は、出生率を反転させるため、従来とは次元の異なる少子化対策の実現を表明し、4月には子ども家庭庁をスタートさせ、「こども未来戦略会議」を開催し、6月の骨太方針までに将来的なこども・子育て予算の倍増に向けた大枠を示す決意を改めて表明した。

一方、教職員採用も厳しい状況が続いており、府内の養成校においては、募集定員を大幅に割り込み、採用不安の解消には程遠い状況である。

また、第211回国会においては、私立学校法の改正が可決され、「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」の考え方から、評議員・評議員会の権限強化の見直しを中心に寄付行為の全面改訂の手続きが予定されている。

そこで、収入を安定させるため、経常費補助金の配分基準内容を十分に把握し、事務を効率化し確実に対応する。

自己評価については、確実に実施し公表しているが、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で十分検討して頂き、別紙を別紙のとおり纏め公表に努めた。

財務面では、事業活動収支計算書より、教育活動収入計が 223,485 千円（前年度 226,539 千円）、教育活動支出計 229,144 千円（前年度 222,567 千円）、教育活動収支差額▲5,659 千円（前年度 3,972 千円）、経常収支差額比率▲0.52%（前年度 1.76%）となった。

また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、60.58%（前年度 62.87%）となった。運営資金及び施設整備等の資金については、慎重に対応する。

3. 財務状況

学校法人 博陵学園

資金収支計算書

(単位:円)

科目	2022年度
学生生徒等納付金収入	104,574,794
手数料収入	685,200
寄付金収入	682,505
補助金収入	81,796,000
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	26,907,910
受取利息・配当金収入	4,472,108
雑収入	8,839,077
借入金等収入	0
前受金収入	2,080,000
その他の収入	291,611,523
資金収入調整勘定	△ 10,160,877
前年度繰越支払資金	10,856,886
収入の部合計	522,345,126
人件費支出	138,103,888
教育研究経費支出	36,053,331
管理経費支出	39,756,247
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	1,780,592
設備関係支出	2,944,140
資産運用支出	135,718,920
その他の支出	35,609,069
資金支出調整勘定	△ 9,789,055
次年度繰越支払資金	142,167,994
支出の部合計	522,345,126

事業活動収支計算書

(単位:円)

科目	2022年度
学生生徒等納付金	104,574,794
手数料	685,200
寄付金	682,505
経常費等補助金	81,796,000
付随事業収入	26,907,910
雑収入	8,839,077
教育活動収入計	223,485,486
人件費	138,103,888
教育研究経費	50,634,336
管理経費	40,406,297
徴収不能額等	0
教育活動支出計	229,144,521
教育活動収支差額	△ 5,659,035
受取利息・配当金	4,472,108
その他の教育活動外収入	0
教育外活動収入計	4,472,108
借入金等利息	0
その他の教育活動外支出	0
教育外活動支出計	0
教育活動外収支差額	4,472,108
経常収支差額	△ 1,186,927
資産売却差額	0
その他の特別収入	62,836,380
特別収入計	62,836,380
資産処分差額	2
その他の特別支出	0
特別支出計	2
特別収支差額	62,836,378
基本金組入前当年度収支差額	61,649,451
基本金組入額合計	0
当年度収支差額	61,649,451
前年度繰越収支差額	144,117,971
基本金取崩	188,001,268
翌年度繰越収支差額	393,768,690
(参考)	
事業活動収入計	290,793,974
事業活動支出計	229,144,523

貸借対照表

(単位:円)

資産の部	
科目	2022年度
固定資産	741,723,768
流動資産	149,398,871
資産の部合計	891,122,639
負債の部	
科目	2022年度
固定負債	0
流動負債	13,013,055
負債の部合計	13,013,055
純資産の部	
科目	2022年度
基本金	484,340,894
繰越収支差額	393,768,690
純資産の部合計	878,109,584
負債及び純資産の部合計	891,122,639

財産目録

(単位:円)

1. 資産総額	891,122,639
I 固定資産	741,723,768
II 流動資産	149,398,871
2. 負債総額	13,013,055
I 固定負債	0
II 流動負債	13,013,055
3. 正味財産	878,109,584

2023年度 事業計画書

2023年 4月 1日から

2024年 3月31日まで

学校法人博陵学園

1. 法人の概要

名称 学校法人 博陵学園 (昭和42年7月14日法人設立)

代表者 理事長 安芸 志穂子

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

電話 06-6872-0210

FAX 06-6872-5993

設置する学校

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

名称 みくま幼稚園

役員

理事 6名 監事 2名

評議員 13名

理事会 2回開催 評議員会 2回開催

職員 29名

2. 事業の概要

(みくま幼稚園)

《教育方針》

たくましいからだとゆたかなこころ

《教育内容》

子どもの生活体験を育み友人関係を基盤とした集団生活の中で、健康な体づくりと豊かな心の体験を培う保育内容の展開と実践

《保育時間》

月～金曜日 午前9時～午後2時

土曜日 休園

《納付金》 保護者負担はこれより 25,700円/月 を差し引く

【満3才児】年額 448,800円 (12分割37,400円)

【3才児】年額 364,400円 (12分割36,400円)

【4才児】年額 412,800円 (12分割34,400円)

【5才児】年額 412,800円 (12分割34,400円)

教材費・空調費など年間にかかる費用は保育料に含まれています

給食費 週4回 月額 6,400円程度 (月16回実施の場合)

バス維持費 月額 3,500円 (年間の維持費を12ヶ月割)

《入園時の費用》

入園料【満3歳児】 75,000円

【3歳児】 70,000円

【4・5歳児】 60,000円

《預り保育の時間及び費用》

月～金曜日 午後5時30分まで 延長8時～8時30分 17時30分～18時

夏冬春休み中の預り保育は午前8時30分～14時 14時30分以降は別料金

《行事実施状況》

入園式、遠足、運動会、保育参観、クラス懇談会、ふれあい動物園、音楽会、表現活動発表会、マラソン大会、卒園式、プール・水遊び・どろんこ 他

《施設関係》

園地総面積 3,821.5㎡ 運動場 2,660㎡

《計画内容》

2022年は、新型コロナウイルスが5月より感染症5類へ引き下げられることとなり、園内でのガイドラインも緩和されることとなったが、感染症の拡大という実態には新たな場面で対峙することとなる。

新型コロナウイルスのため出生数推計を2021年から推計しないことになっているが、実数速報値から2021年の出生数は概ね84万3千人と予想される。また、婚姻数も前年度より12%以上と大幅に減少しており、2022年以降も少子化は一層進むことが予想され、少子化には拍車がかかることが予想されている。

園運営の鍵は園児の確保と教職員組織の安定であり、園児確保については、未就園児クラスの充実及び満3歳児入園者の獲得が将来の園の存亡に大きく影響を及ぼすと考えられるため、地域の子育てステーションとしての幼稚園の存在感により、地域の子育てを支援し、社会への貢献をより大きな存在意義と捉える必要がある。養成校における学生数が大幅に減少し、新卒者の採用確保が非常に困難になってきている。応募者を確保するため、採用のためのスケジュール、システムの構築が求められる。現場が養成校、学生たちに何を貢献できるのか、保育業界がこれからは生きていく人たちにどういった役割を果たすのかは子育て支援同様に求められる。有給の義務化に伴い、有給取得率の向上を目指し、介護や育児の事情がある者にも対応して働きやすい環境を整備するため就業規則を確実に整備し、明るい園運営を目指すこととする。

2023年度の園児募集については、60名以上の園児確保を目指す。

みくま幼稚園 2022 年度公開保育報告

実施日:9 月 20 日(火)10:00~14:30

担当教員:造形絵画指導講師 安芸早穂子

10:00 幼稚園内見学

10:30~11:00 設定保育見学

年中組絵画造形指導

「みくま動物コーナーの生き物 観察・表現・なりきり体験—アート体験を通じてカメを知る」

場 所: カメ池前→ホール

対 象: 年中組 1 クラス

目 的: みくま動物コーナーで飼育されているカメをアート体験を通じて観察し表現する指導

内 容:① 園児が毎日目にし、世話をする動物コーナーで、カメがいる環境を観察

② カメのカラダや機能をゲーム的導入で行い園児らの関心を喚起する

③ 実際のカメを水槽に入れてじっくり観察しながら、準備したカメの甲羅型の白紙画用紙にカメの甲羅模様を描く

④ 甲羅模様が完成したらそれを背負った園児らが、ホールに準備したカメ池コーナーでカメのなりきり体験をする

11:15~12:00 講演会

テーマ:「幼児にとってのアートな時間とは？」

場 所: 小ホール

参加者: 22 名

内 容: みくま幼稚園造形絵画指導におけるアート体験の実践記録を解説、

幼児にとってのアート体験の意味と重要性を伝えた

また、全員コメントタイムを設け、参加者全員から設定保育見学と講演についての感想と意見、質問を得た。

感想① こどもにとってのアート体験の時間が、褒めて育てる保育技術とつながっていることがわかった。

感想② 設定保育のなかでカメを身近な存在として使えるみくま幼稚園の保育環境づくりが素晴らしいと思った。

感想③ 設定保育の途中、カメになりきる時間に「ひっかかれた」と訴えた子どもに対して、特定の子どもに注意をするのではなく「さっきもお話したようにカメは池から出る時に鋭い爪で土をひっかいて登ります。そんな鋭い爪なんだから、使い方には注意してください。他のカメさんにさわる時は特に注意してください。」とした解決のしかたに感銘を受けた。

感想④ 褒めるタイミングですぐに出てくる言葉の豊かさが、教員に求められることを学んだ。

感想⑤ 講演内容から、吉野杉を使ったアート体験保育について、教える側が実際に体験したことの厚みが子どもにも伝わるんだなと感じた。

感想⑥ 講演内容から、年少組の取り組みでは、カンナ屑に飛び込んでアヒルの巣の中の卵になる体験を通じ、幼児の五感を刺激して記憶のしかたを豊かにすることが、言葉だけではない表現の仕方も豊かにするとよくわかった。

感想⑥ 製材所から出た杉の木の削りカスや木っ端を素材にした幼児のアート体験という発想が素晴らしいと感じた。自分の幼稚園でもぜひ同じ素材を使いたいと考えるので協力して頂きたい。

【別紙2】令和4年度 大阪府私立幼稚園経常費補助金（公開保育）に関する実績報告書

① 幼稚園番号	62086	② 幼稚園名	みくま幼稚園	
③ 実施日	2022年 9月 20日（10時00分～14時30分）			
④ 実施場所	施設名：学校法人博陵学園みくま幼稚園			
	住所：豊中市新千里西町2-23-2			
⑤ 協力を得た外部有識者	氏名	幼児期の教育、保育に従事した経歴		
	弘田陽介	教育学教授歴あり（現在文学部教授）		
⑥ 参加した学校関係者評価の評価者	氏名	本園との関係（役職など）	参加方法	
	1	弘田陽介	福山市立大学 文学部教授	直接参加
	2	村上裕子	元PTA役員	直接参加
	3	福村智子	豊中市民生児童委員	直接参加
	4	永目裕	本園勤務・言語聴覚士	直接参加
	5	岡村順子	本園勤務・教務主任	直接参加
	6	安芸志穂子	本年勤務・園長	直接参加
	7			
	8			
	9			
⑦ 他の幼稚園、認定こども園、保育所の職員、地域の幼児教育関係者、小学校等の他校種の教員等	氏名	所属	参加方法	
	1	孟憲巍	大阪大学比較発達心理学准教授	直接参加
	2	平香織	ほわいと保育園住吉園長	直接参加
	3	甚田珠美	元PTA役員	直接参加
	4	村野光子 他2名	アトリオ南丘子ども園園長	直接参加
	5	田中真一 他2名	追手門学院幼稚園園長	直接参加
	6	中川千津江 他1名	宣真認定子ども園園長	直接参加
	7	中野栄三 他2名	(株) ベルサンテスタッフ代表取締役	直接参加
	8			
	9			
10				
⑧ 実施内容	表現分野に関わる「アート」について、実際に子どもとの活動を通じて、アートが育むものは何かについて考える機会とし、コロナの影響下の元、保育の内容を伝えたいため、直接参加のみの形式で公開保育を実施した。子どもとの活動を実際に見てもらい保育時間、その後にディスカッションの時間を設けて参加者と意見の交換や質疑応答の時間とした。今、子どもたちにとって大人が保証すべき育ちとは何か、アートな活動を通じて話し合う。			
⑨ 公開保育の評価（学校関係者評価への反映と公表時期）	アートな活動の中身は、みくま幼稚園の子どもたちにとって馴染み深い動物コーナーに住んでいる亀であるが、実際に亀を観察、触れ合う導入から甲羅となる画用紙への着彩、制作が出来上がってから甲羅をつけて亀になって遊ぶ姿までを「制作活動」として捉えることは斬新であり、絵画を描くことと生活を繋げることへの喜びの体験の一例として新鮮であった、表現とは自己表現であり、絵画制作はその手段にすぎないと気付かされた、との意見を受け、子どもに携わる参加者から好評であった。保育を深く掘り下げるための議論ができたと感じた。公表は2022年度学校評価において実施。			

添付書類

- ・公開保育参加者名簿および学校関係者評価者名簿
- ・公開保育を実施したことが分かる資料（記録・当日の写真など）

令和5年度 大阪府私立幼稚園経常費補助金（公開保育）に関する調査票

① 幼稚園番号	62086			
② 幼稚園名	みくま幼稚園			
③ 実施（予定）日	2023年 11月 8日（10時00分～12時00分）			
④ 実施場所	施設名：みくま幼稚園			
	住 所：豊中市新千里西町2-23-2			
⑤ 協力を得た教育に関する外部有識者	氏 名	教育、保育等に関する指導経歴		
	弘田陽介	前大阪子供総合大学教育学部教授 現大阪公立大学 文学部教授		
	小國龍治	立命館大学総合心理学部特任教授		
⑥ 参加した学校関係者評価の評価者	氏 名	本園との関係（役職など）	参加方法	
	1	弘田 陽介	学校評価委員	直接参加
	2	安芸志穂子	みくま幼稚園園長	直接参加
	3	高橋和也	第三者評価委員	直接参加
	4	村上裕子	学校評価委員 元PTA副会長	直接参加
	5	甚田珠美	学校評価委員 元PTA副会長	直接参加
	6	永目裕	みくま幼稚園副園長 言語聴覚士	直接参加
	7	岡村順子	みくま幼稚園主任 支援コーディネーター	直接参加
	8	安芸志穂子	みくま幼稚園園長	直接参加
	9			
10				
⑦ 他の幼稚園、認定こども園、保育所の職員、地域の幼児教育関係者、小学校等の他校種の教員等 ※同じ学校法人が設置する姉妹園の教職員は除く	氏 名	所属		参加方法
	1	中川真奈美	アトリオみなみおか子ども園	直接参加
	2	福村智子	民生児童委員 主任児童委員	直接参加
	3	住吉晶子	西丘小学校区虹の会	直接参加
	4	中辻強	作業療法士	直接参加
	5	鹿子木康弘	大阪大学大学院人間科学部	直接参加
	6	高木典子	大阪青山大学教育学部	直接参加
	7	尾崎遙	神戸神和大学	直接参加
	8	中川恵愛	(株)ベルサンテスタッフ	直接参加
	9	中塩屋将司	(株)ベルサンテスタッフ	直接参加
10	松岡信道	豊中市議員	直接参加	
⑧ 実施内容	<p>年長組の活動、お買い物ごっこの活動を通じ、抽象理解や非日常への参加など、ごっこ遊びの示すものを分析し、子どもの発達段階と10歳の壁への備えについて考える。年齢と発達段階から、理解と認識をとらえ、言語聴覚士による子どもの発達と活動への取り組みについてのレクチャーのもと、不登校を予防していくための支援について話し合い、子どものたちへ必要な支援について理解を学ぶ機会を作る。質疑応答に答える場を作り、参加者より子どもの不登校への予防について話し合える場を得た。</p>			
⑨ 公開保育の評価（学校関係者評価への反映と公表時期）	<p>子どもの発達と必要な支援について、一人ひとりの特性や認識の力の育ちを説明してもらうことによって、学校生活の中で子どもが困難を感じる場面を具体的に分析することができ、それに対してどのような支援を展開するかについての話がわかりやすかったとの評価を得た。令和6年情報公開において報告書を掲載予定。</p>			